



# スポーツとエレクトロヒートで 地域を、日本を元気に！

上田 純 一般社団法人  
日本エレクトロヒートセンター 理事

ずいぶん昔のこともありますが、今年はバンクーバー冬季オリンピックに沸いた年でした。しかし、日本はその国力に比べて、少々不甲斐無い結果だったように思います。一方韓国は、冬季オリンピックで過去最高の成績（金6を含む14個のメダルを獲得）を収めました。ちなみに日本は銀3銅2でした。サムスン経済研究所の試算によると、韓国選手団が達成した成績の経済的価値は20兆2000億ウォン（約1兆6000億円）だそうです。

スポーツの国際試合（舞台）で、日本の代表や選手が活躍する場面を目にする時の高揚感はずいぶんすごいです。サッカーワールドカップで決勝トーナメント進出に日本中が熱狂したことは記憶に新しいと思います。国民に元気と誇りを与え、母国愛を育てるといふ点では、ある意味、政治家や学者がいくら頑張ってもかなわないかも知れません。しかも経済的な効果もあるのです。にもかかわらず、日本においては、スポーツの世界ではごく一部の才能と運に恵まれた人以外は成功者（スポーツで生計を立てられる）になれません。多くの人は努力の甲斐なく、スポーツとは無関係な職業につくことになってしまいます。スポーツ（部活動やクラブチーム活動）がその後の社会生活に直接的に生かされることはほとんどありません。スポーツに打ち込むにはその覚悟をし、極言すれば「賭け」に出ることが必要となります。結果、多くの若者が安全策としてスポーツよりも勉強を選択しているのが日本の実情ではないでしょうか。

そこで、私は思うのです。

プロや全国レベルでの活躍を夢見る若者が、「賭け」を意識せず、迷わずに好きなスポーツに打ち込めるようにしたい。スポーツに打ち込んだ人にも勉強を頑張った人並みのセーフティネットを用意してあげられる社会にならないものかと思うのです。企業には頼れません。企業は業績が悪くなると真っ先にスポーツへの投資を減らします。スポーツにおける数少ない成功者ですら企業頼みでは実に不安定と言わざるを得ません。それでは、どうしたらよいか？

スポーツにかかわる仕事が地域にたくさん必要です。そのためには、プロ（トップレベル）を頂点とした底辺の広いピラミッドができることだと思います。野球やサッカー等の特定の種目に限ったものでなく、さまざまなスポーツ全体として…。日本中のあらゆる地域で老若男女、プロ（トップレベル）を目指す人も楽しみたい人も応援したい人も、すべてがスポーツを謳歌でき、それに携わる人々の職場が保障されることだと思います。

まずは、その中核となる施設、すなわちトップレベルのチームが常にホームゲームを開催できるような収容力のあるアリーナ、サッカー場、陸上競技場等を含む総合施設を国や自治体あるいはCSR意識の高い企業の力を借りて各主要都市に作りましょう。このご時勢に「箱物」は…、と言われそうですが、運営を民間（住民）が行い知恵をすれば、事業として成り立つ（収益は出せる）と思います。そこには雇用が生まれ、地域が活性化します。みんながスポーツを楽しみ健康になり、医療費も減ります（たぶん）。日本のスポーツが国際的にも強くなり、社会全体に活力が生まれます。更に経済効果まで期待できるのですから、良いことばかりだと思います。

折りしも、バスケットボール界がプロ化に向けて動き出しています。分裂状態だった日本リーグ（8チーム）とbjリーグ（今年から16チーム）が統一され、それぞれのプロチームにはホームタウンが必要になるやに聞いています。すなわち、ホームアリーナが必要になるはず。この機会を捉え、手始めにヒートポンプや誘導加熱の技術をフルに活用して環境負荷の少ないアリーナ（温水プール、スポーツジム、スーパー銭湯、地産地消のレストラン街などを含む365日稼働の施設）を作れないでしょうか。エレクトロヒート技術をはじめ、日本の環境技術の粋を集めたアリーナを各ホームタウンに作れないでしょうか。日本の環境技術の総合展示場的な施設になり、参加企業の技術力をPRできる場になれば、更に付加価値が高まります。

エレクトロヒートセンターやその関係者の力でなんとかできないものかと夢想しています。どなたか、フィージビリティスタディを始めませんか？